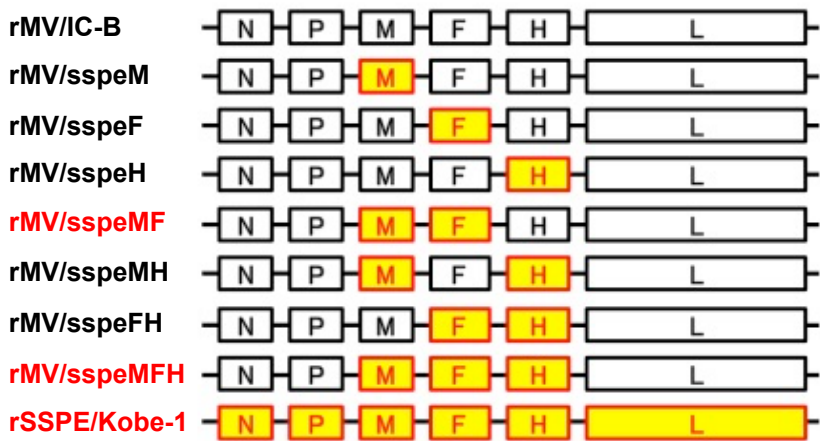


SSPEウイルスの神経病原性の解明

研究分担者：神戸大学大学院保健学研究科ワクチン創薬研究開発講座 堀田博

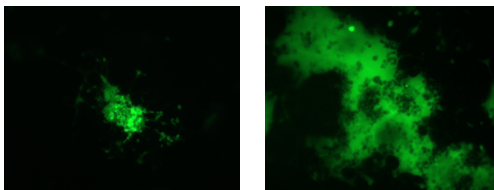
SSPEウイルス変異を有する遺伝子組換え麻疹ウイルスの作製



細胞融合能 (神経芽細胞腫)	神経病原性 (マウス脳炎死)
-------------------	-------------------

(±)	(-)
(±)	(-)
(±)	(-)
(±)	(-)
(++)	(++)
(±)	(-)
(±)	(-)
(++)	(++)
(++)	(++)

神経芽細胞融合能の比較 (10 dpi)



(±)

(++)

ウイルス タンパク質	アミノ酸 変異	細胞融合能
F	Y398H	(++)
	G301W	(++)
H	K575Q	(++)

解説

1. SSPEウイルスKobe-1株では、変異Mタンパク質と変異Fタンパク質の共同作用により、神経細胞融合能ならびに神経病原性が著しく増強した。
2. 上記変異Fタンパク質では、主に398位および301位の変異が、神経細胞融合能ならびに神経病原性の発現に重要であることがわかった。
3. 変異Mタンパク質と変異Fタンパク質に加えて、Hタンパク質の575位の変異が細胞融合能をさらに増強させることがわかった。